

## 第34回泌尿器科漢方研究会学術集会

会長： 笈善行(香川大学医学部泌尿器科学教室)

会期： 2017/6/17 ~

会場： コクヨホール(東京都)

17045592

## 一般講演Ⅱ

座長： 信州大学 石塚 修

9. 冷えを伴う下部尿路症状に対する  
ブシ末の使用経験

原三信病院 泌尿器科

○武井 実根雄、内藤 誠二、山口 秋人

【諸言】 下部尿路症状を呈する患者多くは高齢で冷えを伴う症例が少なくない。西洋医学的には末梢への血流障害と考えられ、慢性的なものとして心不全、甲状腺機能低下症、レイノー症状、閉塞性動脈硬化症、脊柱管狭窄症や各種の神経疾患、低血圧、貧血など日常的に遭遇する病態でよく見られる。漢方医学的には気虚、血虚、瘀血、陽虚、寒厥など気や血の働きが落ちている時に見られるとされている。すなわち血液の不足、うっ血、水分の偏在、代謝機能低下などが原因として想定される。今回冷えを伴う下部尿路症患者5例に対し、ブシ末を加えて有効性を検討したので報告する。

2016年1月～12月までにブシ末を処方した5例を対象とし、背景因子および効果等を検討した。

【症例1】 72歳の女性。シェーグレン症候群を合併したハンナ型間質性膀胱炎。ハンナ病変の電気焼灼、水圧拡張術施行するも頻尿、膀胱痛の改善が不十分であった症例。他院にて牛車腎気丸に加えて喉がかわるため麦門冬湯も処方されている。下半身の冷えがあり、冷えると症状悪化するとのことで、当科ではIPDに加え、ブシ末1gを追加したところ、冷えが改善し頻尿、膀胱痛も改善した。

【症例2】 82歳女性。子宮脱にて膣閉鎖術施行したが、術後より下肢に響く尿道膀胱痛を訴えるようになった。腰部脊柱管狭窄症術後であるが歩行障害もある。慢性骨盤痛として桂枝加朮附湯や牛車腎気丸処方するも改善なし。下半身の冷えを訴えるためブシ末1g追加したところ冷えが解消し尿道膀胱痛も改善した。

【症例3】 55歳男性。膀胱頸部硬化症と間質性膀胱炎があり、経尿道的膀胱頸部切開術と膀胱水圧拡張術を受け、術後尿道狭窄併発し内尿道切開術を追加した症例。術前立腺および尿道不快感が非常に強く心理的にも落ち込むくらいであったが、下半身の冷えがあったためそれまで処方していた八味地黄丸に加えてブシ末1g追加した所、不快感はほぼ消失し漢方処方も終了できた。

【症例4】 73歳女性。脊髄炎後に神経因性過活動膀胱にて切迫性尿失禁あり。各種抗コリン薬使用するも改善なし、右下肢に冷えがあるとのことで清心蓮子飲開始したが改善なし。さらにブシ末1g追加するも十分な改善は得られていない。

【症例5】 82歳女性。骨盤臓器脱に対するメッシュ手術後5年経過して腰部脊柱管狭窄症の手術を受けた。術後腰痛は改善したが下肢の痺れは悪化。動いた時の下腹部痛、排尿痛も出現した。下肢の冷えもあることから、桂枝加朮附湯に加えてブシ末2g処方したが、症状改善乏しい状態。

【結論】 今回冷えがあった症例にブシ末1～2g処方し、5例中3例に有効性を認めた。いずれも冷えの改善に伴って、膀胱や尿道の痛みや不快感が改善した。無効であった2例もブシ末は1gと2gしか使用していないため、増量による効果や他の漢方との併用にて有効性を引き出せる可能性もあると考えた。